

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104369
法人名	社会福祉法人 広島光明学園
事業所名	グループホーム光明牛田
所在地	広島市東区牛田旭1丁目14番26号 (電話) 082 - 211 - 3040

評価機関名	NPO法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	2007年10月23日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	2004年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9 人	常勤8人非常勤1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート		
	4 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	55,000 円
敷 金	150000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
一日当たり1500			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85 歳	最低	78 歳
		最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	碓井内科胃腸医院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム光明牛田の理念は 1 家庭的な雰囲気大切に 2 地域との交流を心掛けよう 3 明るい笑顔を絶やさないよう、と3つの理念があり、通り一ぺんのものでなく独自のものをかかっている。入居者一人ひとりの入居者症状報告書にはきめこまかく症状が書かれ、その日のうちにFAXで協力病院へ送られる。個別介護計画実行表への記録と合わせ全員の状況把握が一目で判る。隣接の小学校の校庭から子供の声が聞こえ癒される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	買い物への同行、周辺地域の散歩は従来にもまして行われている。2階、3階で1ユニットになっているため職員の見守り業務、日常介護は多様で、本来の全体管理をすることが手薄になる事が懸念される。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目;外部4)
	評価についての取組みは真しに受けとめていく気持ちが大い。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	主な討議の議題は事業所の計画が中心に話し合われ2ヶ月ごとの開催は議題に新鮮味がなく感じられる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に備え付けの用紙があって、自由に書きこみアンケート函に入れられるようになっている。又直接管理者、職員に伝える雰囲気が見られる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	理念の一つであるだけに経営母体の光明学園の強力なバックアップもあるのでうまく保たれている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を3つかけてそのもとに地域に根ざしたグループホームの構築に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は就業の前に3つの理念を唱和して、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営母体の光明学園がバックアップにいて、地域の行事に参加し、地元の人々と交流する機会は多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	学園長自ら評価の意義を理解されており、評価を日常の介護に活かすよう指示が出されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、報告、意見のくり返しでサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を中心に活動しているので、市側との連携は少ない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が来られた時には現状報告をし、来られない家族には電話で報告し連絡は密にしている。		毎月1回グループホーム牛田のB5版程度の便りを発行し、家族の手元に送る写真も入れられると良い。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情等は管理者や職員に伝える雰囲気があって、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	十分に配慮した上で異動を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修制度があって、育成に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列にグループホームを持っており、職員の研修や相互訪問でサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人家族が事業所を見学してもらうことから始め、事業所での生活が安定するのを見極めて、安定的な利用に移行する。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族的な雰囲気を大切にしながらお互いが協働し、和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個人ファイルを作り、いつでも職員が確認できるようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員が情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には検討、見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、必要な時に必要なサービスをなじみの職員が支援している。		4階建ての2階、3階が1ユニットの使用になっているので入居者の不安、職員の気苦労が大きい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望があれば提携医の医療機関での診療をすすめている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とよく話し合い、かかりつけ医と状況説明を細かくし、その内容も家族に納得がいくまで話している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの時に職員の意識向上を図ると共に、日々の関わりを点検し利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースが保たれるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の健康状態に合わせて柔らかいご飯であったり、刻み食の提供があり職員も同じテーブルに座って食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴ができるが、本人の希望に合わせた時間と合致せず十分とはいえない。		事業者側の設定時間が主導になっているが、利用者側の要望に合わせたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の整理、掃除の手伝いと、その人の生活歴を活かした役割りがつづけられている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日、事業所の周辺を散歩に出かけることが多い。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	最初からグループホーム用に建てられたものでないだけに2階3階で1ユニットになっておりモニター監視をしていて鍵もかけている。		交通量も多い場所だけに危険もあるので止むをえない。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の外、月1回は自主防災訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、食事量や水分量の記録をとり一人ひとりの状況は十分把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、植物もあり、ソファー、エレクトーンもあって壁には絵、写真もかざり、くつろげる空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりのペースが保たれるよう配慮している。居室は明るく広い、いままで使っていた物も取り入れてあり居間での生活は快適だ。		